

テーマ
 アール・ヌーヴォーとアール・デコの違いについて具体的な作品を挙げて比較してみよう。

結 論
 アール・ヌーヴォー、アール・デコ共にはっきりとデザインの違いが出るが、時代背景によって移り変わっていったこと、どちらも素晴らしいことがわかる。

- ポイント
- ① 装飾的で美しいデザイン「アール・ヌーヴォー」
 - ② モダンで落ち着いたデザイン「アール・デコ」
 - ③ 時代とともにデザインは移り変わる。

内容等 気づいた点、疑問点 まとめ、考察

アール・ヌーヴォー

○19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパを中心に開花した国際的な美術運動。

「新しい芸術」を意味する。
 花や植物などの有機的なモチーフや自由線組み合わせによる従来の様式にとられない装飾性や鉄やガラスといった当時の新素材の利用などが特徴。

建築「タッセル邸階段」ヴィクトール・オルタ
 「カステル・ベランジェ」エクトール・ギマール
 「サグラダファミリア」アントニ・ガウディ
 絵画「ジスモンダ」アルフォンス・ミュシャ
 「接吻」グスタフ・クリムト
 工芸「エミール・ガレの小瓶」
 「トンボの精」ルネ・ラリック
 家具 ゴシック、ロココ、バロックの影響を受けたもの

アール・デコ

「アール・ヌーヴォーの時代に続き、ヨーロッパ及び、アメリカ合衆国を中心に1910年半ばから1940年代にかけて流行、発展した装飾の傾向。
 幾何学をモチーフにした記号的表現や、原色による対比表現などの特徴を持つが、その装飾の度合いや様式は多様である。

建築「クライスラービル」ニューヨーク
 ドレス ウエストを絞らない筒型、腰の位置低め。丈は膝下
 工芸 レイモンド・ローリーの作品
 家具 東京都庭園美術館の本館1階
 フランスのアンリ・ラパンによる「香水塔」

気づいた点

アール・ヌーヴォー

- ・花
- ・きのこ
- ・女性
- ・植物のツタ
- ・家具の丸み
- ・カラフル

アール・デコ

- ・幾何学模様
- ・直線
- ・モダン
- ・機械的
- ・落ち着いた配色

キーワード 気になる！

アール・ヌーヴォー

- ・ミュシャは象徴的で代表的な作品ばかり
- ↓
- ・ミュシャの作品からアール・ヌーヴォーを知れる！
- ・家具はどれも美しいけれど、量産不可能なものばかり。

アール・デコ

- ・モダンなものが多い。
- ・落ち着いた色が多め

クリムトの作品イラスト

レンピッカの作品イラスト

「ミュシャってどんな人？」
 アルフォンス・マリア・ミュシャ
 (1860～1939)
 チェコ出身のグラフィックデザイナー、イラストレーター、画家。
 星、宝石、花などの概念を女性の姿を用いて表現する。